

山行報告



六甲・摩耶山

日 時：10月6日（土）

参加者：L尾越 SL和田 香川 河合 北口 瀬尾 多木 苦瓜 西口 野村 村上 関山

行動記録：JR 新神戸駅集合 8:30～こんぴら山雷聲寺 8:45 ストレッチ(9:00 発)～旧摩耶道、
学校林道經由天狗道入り口 10:15～摩耶山掬星台 11:20 (昼食、11:50 発)～穂高湖
12:15～シェール檜 12:40 (12:50 発)～穂高湖 13:10 休憩 (13:45 発)～杣谷登
山口 15:25(ストレッチ)～16:00 阪急六甲駅

★ 六甲・摩耶山

10月6日土曜日、秋らしい天候の下、尾越リーダーと計12名の参加者によりスタート。

旧摩耶道の上り口に向かい雷聲寺へ行く途中の熊内八幡宮の保育園では、父兄が沢山集まり子ども達に声援。園児のかわいい笑顔の運動会である。

布引中学校からの登りがこたえる。雷聲寺に到着すると結構いい運動になっていた。階段を上がって登山道の手前でストレッチ。そして、スタート。この日は、涼しく歩きやすい日である。先頭集団は、女性陣。男性は、後方話しをしながら歩く。いろんな話に花をさかせる。話をしながら歩いている内に学校林道の分岐へ。案内看板が整備されており楽である。縦走路に出る手前に神戸市を一望できるところがあり、今日もガスが無くクリアな景色が見ものであった。そこで、写真を撮る。縦走路では、そんなに人は、多くなくゆっくりと歩ける。中には、走っている人や外国人の姿もあった。山を走っている人を見ると、色んな人がいるとつくづく思う。

摩耶掬星台で昼食。夏は暑く、冬は北風の中、震えながら昼食をするが今回は、いい心地である。いつも猫がいるのに今回は、居なかったのが残念である。ここで、皆で証拠写真を撮る。ケーブルカーの駅をバックに撮るか迷うもいつものパターンである。

多木



穂高湖へ到着。徳川道は、江戸時代明石からつながっているとの案内板を読むと、とても今の時代からは、想像もする事が出来ない。さぞかし大変な時代だと感じる。穂高湖の木の間整備された歩道から辺りを見渡すと高い山が見える。シェール檜である。いつもは、木の歩道から眺めているが登るのは初めてである。湖を半周したところで階段を上がり高くなっているところがある。2本目の柱のところから登っていくと頂上。広くはないが展望は良い。神戸市の北の方の街も展望できる。穂高湖では、少し時間が有ったので休憩を取る。あちらこちらで、話がはずむ。楽しい一時である。のんびりとでき気候もよく最高である。杣谷峠から下山。あまり最近使ったことが無いのですっかり忘れてしまっている。私の記憶もいい加減なものである。丁度、降りて来たところの砂防ダムの砂を浚渫した後で、ビックリ。ごそっと砂を除去して

いた。後は、六甲の阪急駅に向かいとぼとぼと歩く。途中篠原近辺で有名人のお宅の前を

通るが静かであった。天候も良く良い日でした。参加者の皆さんお疲れ様でした。

上高地・涸沢

日時：10月9日（火）～11日（木）

参加者：La 澤田 SLa 金島 阿江 瀧原 時井 野田

Lb 待場 SLb 森永 池尻 坂田 田羅間(易) 三木

行動記録：

9日（火）新大阪駅 22時00分集合 新大阪駅 22時30分出発

10日（水）上高地 5:30(6:00 発)～明神 6:50(7:00 発)～徳沢 7:50(8:05 発)～横尾 9:05(9:25 発)～本谷橋 10:50 昼食(11:20 発)～涸沢ヒュッテ 13:50(泊)

11日（木）涸沢ヒュッテ 6:20～本谷橋 7:35 朝食(7:50 発)～横尾 9:00(9:15 発)～徳沢 10:10(10:30 発)～明神 11:25(11:35 発)～上高地バスセンター12:25 昼食(14:30 発)～阪神梅田駅 20:16 解散

★ 涸沢の紅葉

メンバー12名。22時30分発、新大阪より夜行バスで出発。3列のゆったりしたリクライニングシートで「夜行バスで眠れるかな？」という不安が少し和らぎました。途中2度の休憩を経て、早朝5時30分、薄明かりの上高地バスターミナルに到着です。

そこはもうすでに、沢山の登山客でごったがえしています。新大阪で買ったおにぎり一個で腹ごしらえをして、身支度を整え、バスターミナルを6時に出ました。殆ど高低差のない気持ちいい遊歩道が続きます。シラカバ等の木々に囲まれ、下草が丈の短い熊笹で覆われ、とても雰囲気のいい道を、皆おしゃべりを楽しみながら歩きます。所々で、林道の間から、雄大なアルプスの山々や透き通った梓川を眺めることができます。

カラフルな服装をした登山客が列をなして歩いています。約1時間で明神に到着です。次の休憩地徳沢園は、井上靖の小説「氷壁」に登場の宿です。上高地らしく、落ち着いた別荘のような建物です。お水で程良く冷やしたりんごを頂きました。美味しかった。

1時間かけて横尾に着き、少し長めの休憩をとりました。横尾は槍ヶ岳と涸沢方面との分岐点にあたります。木製の立派な吊り橋、横尾大橋をバックに私たちは記念写真を撮



坂田

り、出発です。横尾大橋からしばらくは整備された遊歩道が続くが、段々と山道に入ってきます。それでも本谷橋までは高低差の少ない山道が続きます。左手には256mの「屏風の頭」の岸壁が圧倒的な高さで迫ってきます。岸壁を取り囲むように登山道は続きます。横尾大橋を出て約一時間半、小さな吊り橋、それが本谷橋です。橋を渡りきった辺りは、ゴロゴロ大きな石が転がる河原です。急登に備えた休憩の人たちで一杯です。私たちもここで休憩をとり、朝の残りのおにぎりを食べ、11時前に涸沢をめざして歩きます。

本谷橋からは一気に急登が続き、ゆっくり、一步一步、歩を進めます。紅葉したナナカマド等の林に元気をもらい登ります。段々空が近くなり、涸沢が近づいてきたのだろう。何



度か小休止を挟みながら、涸沢ヒュッテのかざす吹き流しが、こんもりした小山の向こうに見えてきた。岩場にペイントされた○や矢印が方向を教えてください。吹き流しが見えてからも、随分時間がかかりました。やっと

リュックを部屋に置いてヒュッテのテラスでコーヒーを飲みました。

大自然の中に温かく包まれ、涸沢カールと素晴らしい赤・黄・緑のファンタジーの世界に浸りながら、改めて、涸沢カールの真ん中にいる自分を実感していました。鮮やかで広々とした紅葉のカール、色とりどりのテントの花。少し薄暗い感じの中に、壁の様に立ちのぼる穂高の峰々、その鞍部にはマッチ箱のように穂高山荘が見えます。心地よい疲れで早々と眠ってしまったせいか、深夜に目覚め、小屋の外に出ました。思ったほど寒くなく、星空にうっすらと浮かぶ山々の稜線を眺めながら、ひと時を過ごした。

翌朝6時、小屋を出発。曇りがちのお天気も気になり、モルゲンロードに心を残しながらも、カールの斜面を這うように紅葉が続く中、涸沢を下りました。登りと同じ本谷橋の河原で、小屋で用意して頂いたお弁当を広げ、ゆっくり休憩をとりました。

五大山

日時：10月17日(水)

参加者：Lb 砂川(延) SLb 瀧原 田口(末) 田口(善) 田羅間(勤) 田羅間(易) 苦瓜
長谷川(易) 開

SLa 多木 池尻 井上 垣内 坂田 砂川(美) 瀬尾 森川 村上

行動記録：百毫寺 10:35 準備体操(10:50 発)～休憩 11:35(11:45 発)～昼食 12:20(12:40 発)

五大山山頂 13:00～エルム市島着

14:30～15時百毫寺着 15:00

★ 丹波五大山～五台山口

今年9月に高御位山遊会に入会して初めての山行。ワクワクドキドキのスタートが雨(雨女ではないはずが…)とにもかくにも曇天のスタート。

ヒュッテと涸沢小屋との分岐点にたどり着きました。最後の登りを頑張って涸沢ヒュッテの玄関に着いたのは本谷橋を出て2時間30分です。

雨に備えて着用していた雨具も、横尾山荘付近では不要となり、身軽になって、徳沢、明神と休憩を

取りながら、上高地についたのは12時30分。りんごのぎゅっと詰まったアップ



ルパイとコーヒーで乾杯して、無事に山行を終えられたことを皆で喜び合いました。皆さん、アップルパイの大きな箱を下げて、午後2時半、上高地のバスターミナルを出発し帰路につきました。

良きメンバーと天候に恵まれ、何よりリーダーの澤田さん、待場さんの好リードに支えられ、涸沢の紅葉を心ゆくまで楽しめて、とても満足しています。メンバーの皆様ありがとうございました。これからも自分の体力と相談しながら、山登りを続けたいと思います。



それは立派な由緒ありそうな太鼓橋の横をすり抜け、白毫寺の本堂を横目に裏山へ登り始めました、ピンクのリボンを目印に進む、倒木が多く、本当に自然な山の風貌、倒れた木をくぐり、跨ぎと、なかなか忙しい登りでなかなかおつなものだと思っている内に、あっという間に本格的な雨。五大山頂上では周りは真っ白に煙り景色は何も見えません。それでも足元に咲く名も知らぬ可憐な花に心が癒されました。

記念写真を撮り五台山への予定は変更下山となり、エルムいちじまへの下山道を下る事となり、目印のピンクのリボンと識番を見ながら急斜面を転ばないようにと注意しながら歩いていたのですが、最後に随分なだら

したが、特に急な所もなく順調なすべり出しが…、一時間も登った頃、とうとうボツボツと雨粒が落ち出しカッパ着用となりました。五大山頂上手前で昼食、この時は木の梢に遮られ雨もそう気にならず、雨の中のお弁当もかな所で落ち葉と濡れた石に足をとられスッテンコロリ…、最後まで気を抜いてはダメと又一つ教訓となりました、山では道標がいかに大事かと、皆さんの後について歩きながらつくづく思った一日でした。

雨で最後まで行く事が出来ませんでした、又次回リベンジで皆さんと五台山まで登ってみたいと思います。皆様お疲れさまでした。リーダーさんありがとうございました。

暁晴山～夜鷹山

日 時: 10月21日(日)

参加者: La 須増 SLa 本多 阿江 金島 北村 坂田(俊) 田口(末) 田中 田羅間
(易) 苦瓜 野田 山本(敏) 青山
Lb 山本 LSb 長谷川(孝) 池尻 狩集 河合 清水 多木 瀧原 田口(善) 中嶋
西口 藤田 山本(喬) 峯山

行動記録: 滝野庁舎下—高砂駅 7:15—宝殿駅 7:40—姫路バイパス 7:45—神崎南ランプ 8:15—寺前駅 8:25—砥峰駐車場 8:50 着～自然交流館 9:00(9:30 発)～砥峰高原展望台 10:00(10:15 発)～夜鷹山登山口 10:38～夜鷹山 11:10(11:20 発)～夜鷹山登山口 11:40(11:48 発) 一点名峰山 12:15～(昼食) 12:25(12:55 発)～山笑う登山口 13:42～暁晴山登山口 13:55～暁晴山 14:30(14:45 発)～峰山高原ホテル(下山・ストレッチ) 15:20(15:30 発)—ホテル_リラクシア(入浴) 16:05(17:00 発)—寺前駅 17:08—神崎南 IC 17:15—宝殿駅 18:05 発—高砂駅 18:20 着—滝野庁舎下

★ 梅鉢草にびっくり

バスを降りると、すぐ一面すすきの原っぱ、遠くはふかふかの芝生にしか見えないのに、歩くにつれ、背の低い私には迷路に迷いこんだかの様でした。

足もとを見ると、すすきの間に可憐なリンドウがあちこちに咲き、展望台の近くまで来ると白い小さな花が咲いていました。後で聞

峯山

くと梅鉢草だとか、びっくりしました。こんな所で会えるとは！もっと高い山に咲く花だと思っていました。

実は母から受け継いだ喪服の紋が【梅鉢】です。娘の喪服を作る時の亡き母との会話を

思い出して、胸が熱くなりました。その日は行くところ行くところすすきに出迎えられ、見送ってもらいました。

足が遅くおくれがちな私をサブリーダーの方がサポートしてくださって、楽しい一日でした。



西大台ヶ原・大普賢岳

日時：10月27日(土)～10月28日(日)

参加者：講師 砂川(延)

L野村 SL三木(悦) 時井 阿江 青山 田羅間(勤) 田羅間(易)

L瀧原 SL伊賀 坂田 小山 垣内 川村 大石 池尻

行動記録：

27日 滝野 5:50—JR宝殿駅 6:45—大台ヶ原 10:30—大台ヶ原ビジターセンター10:45
レクチャー11:30 昼食・ストレッチ 12:30～ ナゴヤ出合 13:28～開拓跡
14:00(14:10発)～開拓分岐点 14:25～中の谷木橋 15:36～大台ヶ原ビジターセン
ター16:15(16:30発)—和佐又ヒュッテ 17:10(泊)

28日 和佐又ヒュッテ 7:10～笙の窟 8:40(8:45発)～石の鼻 9:10～大普賢岳 10:35
(10:40発)～笙ノ窟 12:40(12:45発)～和佐又ヒュッテ 13:40—宝殿駅 19:30—
滝野 20:10

★ 知力と体力を得て終了山行へ

秋も深まり各地の紅葉情報が流れてきます。涸沢山行に続き、学習会の終了山行も西大台ヶ原・大普賢岳と紅葉のスポットです。どっぷり紅葉に染まった秋になりました。

この度の終了山行は、学習会B班全員が参加です。和佐又ヒュッテでは偶然にもTV撮影の日と重なり、とても有意義で思い出深い山行となりました。

昨年10月から行われた善防公民館での学習会も期限の一年を向え終了となります。会長の「皆さんで計画して終了山行をしませんか？」の提案に、全員大賛成です。学習会の度、少しずつ話し合い、夏山山行が終わると役割分担で任務を決め具体的に準備が進

三木

められました。リーダーはもちろん全員が何らかの役を担いでの山行です。事前申し込みが必要なので、渉外担当はいち早くの任務になりました。私の担当はA班のSLと1日目の感想文です。

山行1日目は、台高山脈の南端に位置する



日本屈指の多雨地帯大台ヶ原です。山上の駐車場（1573m）を起点に東西2つの周遊コースがある中、利用調整区域の西大台コースです。（約8km）ビジターセンターで

30分のレクチャーを受けた後に散策をしました。ゲート手前の大台教会まで行くと駐車場の賑わいもうその様に静かです。

西大台は苔むした倒木ときれいな沢がいくつもあり、手付かずの大自然が迎えてくれました。どこか芦生の森を思わせる雰囲気

ガスがかかった森や時折り差し込む光も神秘的でいい感じです。反時計回りのコースは比較的歩きやすいコースでしたが、終盤はガレ場の上りと雨が待っていました。でも、チームで励ましあって歩き、最後まで西大台の秋を楽しむ事ができました。

バスはTVカメラが回る和佐又ヒュッテへと向い、一日目の山行が終わりました。

最後に1年を振り返りたいと思います。これまでの私達は「連れて行ってもらう登山者」でした。1年間「学習」と「山行」を重ね、学習では気象・地図・ロープワーク・市ノ池でのビバーク訓練等、山の基本や安全を繰り返し、繰り返し学びました。山行では夏山山行や個々に、いろんな山行に参加して山体力を付けてきました。山行2日目の大普賢岳も終始雨の山行となりましたが、全員で山頂に登ることが出来ました。

この一年、知力と体力を得て、皆大きく成長したと思います。そして登山への意識が大きく変わりました。これまでの「連れて行ってもらう登山者」から、会が目指す「自立した登山者」へと前進したように思います。これからも体力・技術・知識・登山力を上げながら、山域を広げて行きたいです。来年はどんな山へ行けるだろう！夢は膨らみます・・・

会長、皆さん1年間ご指導ありがとうございました。終了山行お疲れ様でした。

★ 学習会B班終了山行二日目 大普賢岳

まきみ

学習会B班、昨年10月18日の座学から始まり、古法華にて自己確保トレーニング（この時、サポートで参加して下さった松下さん、ありがとうございました！）、市ノ池公園内にてビバーク訓練などを体験し、今回、教室生全員で終了山行を迎えることが出来ました。

二日目、大普賢岳。大峰山脈を形成する山の一つで大峰縦走線歩道（大峰奥駈道）上にあります。古来、修験道の山として山伏の修行の場であった為、指弾（シタン）ノ窟、朝日窟、笙（ショウ）ノ窟、といった修験道の行場跡などがあります。特に、笙ノ窟から山

す。

1年間“ワイワイ”一緒に学んだ仲間と秋の西大台をゆったりと“静かに”歩きました。足元のかわいい実生（種から出た芽）や苔を踏まないよう気をつけながら歩きます。ナゴヤ谷の美しい沢を渡り、周遊コースの半ば開拓跡を過ぎたあたりからは、開けた森が広がり紅葉がとても美しく、心を満たしてくれました。

頂付近までは、ハシゴや鎖場が連続する、常に気の抜けないコースとなっています。

昨夜からの雨が続き、当日も雨。この天候で行動してよいのか？行ける所まで登ろう、ということで出発の準備。ちょうど、宿泊した「和佐又ヒュッテ」でTV番組ロケをされていた西川忠志さんもストレッチに参加された。また、出発時には『元気いっぱい笑顔で』見送っていただいた。私は、雨と肌寒さで気分が落ち込んでいたが、この瞬間、そんな気持ちは吹っ飛んだ。感謝の気持ちを込め、西川さんに思いっきり手を振った（#^.^#）

最初にある林道を通過し、緩やかな落葉一面の尾根に出た。霧が濃く、景色は楽しめなかったが、登山道に落ちている紅葉の葉、特に赤色のモミジ、雨に触れたその色は、キラキラと輝き美しかった。雨の中を歩くのも悪くない、私の気持ちを和ませてくれた。

途中、いくつかの窟の前を通過。特に印象的だったのが、笹ノ窟。静けさの中に突然現われた非常に大きな岩。横穴があり、覗いてみると、とても立派な祠がある。地元では、ここは役行者が最初に修行した場所と言い

笹ノ窟を過ぎると道は徐々に険しくなり、急な斜面、崖道、ハシゴ、鎖の連続。鉄ハシゴや鎖はしっかりしているが、濡れているので要注意。気を付けていても滑りやすい。小休止をとりながら、慎重に黙々と登った。引き返すことなく、出発から3時間20分ほどで山頂に着くことができた。晴れていれば、大峰山系が見渡せる大パノラマのはずが、視界ゼロ。しかし、無事に登頂！みんな笑顔！！この瞬間はとても嬉しかった。

頂上では冷たい風が吹き、すぐに下山することになった。下りにあるいくつかの急な鉄ハシゴは、会長がロープを出して下さり、チェストハーネスにシュリングセットを着け、自己確保を取り降りました。皆スムーズに行えていたので、これまで学習してきたことが活かされていた。雨は降り続けていたが、気づけばゴールの和佐又ヒュッテ。予定より少し遅い時間となったが、無事に下山できた。

悪天候だったので、険しい山容での行動になりましたが、全員無事に下山することができ、本当に良かったです。

下山後、和佐又ヒュッテで用意していただいたお弁当を食べました。お弁当のサイズは小さかったが、持ってみれば、ズッシリ♪開

伝えられているようだ。自然岩窟でもあるし、とても幻想的であった。



けてみれば、ぎっしり♪旬の食材を使ったご飯とおかずで大満足。美味しかったです。

下山後のお楽しみは、吉野郡の入之波（しおのは）温泉「山鳩湯」にて入浴。含炭酸重曹泉、掛け流し、源泉100%！色は黄土色、39℃と少しぬるめの湯です。雨に打たれ冷えた体には、少し物足りなかったが、この時だけは雨もやみ、露天風呂から眺める吉野の山は、素晴らしく、湯から上がれば、お肌つるつる！疲れもとれ、癒されました。

この二日間、今までの学習会の成果が発揮でき、終了山行にふさわしい、大きな達成感に満たされました。また、反省点などもありましたが、改めて復習し、今後の山行に活かしていきたいと思います。

会長を始め、初リーダーの野村さん・瀧原さん、本当にお疲れ様でした。そして、私をお仲間に入れて下さった教室生の皆様へ……。この一年、サポートする側が、サポートされっぱなし！側になってしまい、大変申し訳なかったです。でも、皆さんと過ごしたこの時間は、とても楽しく、充実していました。素敵な思い出でいっぱいです。本当に有難うございました。そして、これからも、よろしく願いいたします♥

山行報告



地藏谷から摩耶山へ

日 時：9月3日（月）

参加者：L 松下 SL 荘所 大谷 苦瓜 村上

行動記録：新神戸駅 10：15～公園 10：30～地藏谷出合 11：30～第4堰堤 12：15（12：40 発）
～天狗道出合 13：05～摩耶山 13：25（14：10 発）～学校林道出合 14：50～雷声寺
15：45～新神戸駅 16：15

★ 地藏谷から摩耶山へ

9月3日（月）、私は最寄の駅を7時32分に出発。三宮で地下鉄に乗り換え、新神戸駅へ。そこまでは予定通りだったのですが、集合場所の2階ロビーで右往左往してしまいました。参加者に電話をして高御位山遊会のいつもの北口集合場所にたどり着いたときにはもう汗びっしょり。JRが事故で遅れたのもあり、駅からのスタートは10時過ぎになりましたが、L以下超ベテラン3人と新人2人の5人。地元の方々がラジオ体操をしている展望台でストレッチをし、布引雄滝から市ヶ原へ、地藏谷出合でシルバコンパスを合わせました。沢を何度か渡るとき、登山道がはっきりしていないので、道に迷ったら危ないと思いながら地藏谷を登って、12時30分平らな風通しの良い砂防ダムの脇でお昼。少人数だったので、和気あいあいとお腹を満たし、足の疲れもやわらいで、山頂をめざしました。登りに弱い私はLの次に歩きましたが、私は7月末から、山登りが楽しみから苦しみになっていましたので、今回もすこし不安の中、申し込みしたのですが、何か

村上

あれば、ロープウェイもケーブルカーもあるわと開き直っての参加でした。ほとんど木立



の中を登ったコースは、思ったより心地よい山登りになりました。摩耶山頂で神戸の街並みを眺めながらのコーヒータイムは、ゆったりと時が流れて心豊かに過ごせました。下山は夏を惜しむようなせみの鳴き声を聞きながら、雲の流れや遠くにカミナリの音を気にしながら、天狗道から予定変更で学校林道を下り、15時45分雷声寺の階段を降り一安心。SLのかけ声でストレッチのあと、街の坂道を新神戸へ下りました。これからも山を楽しみたいと思いますのでよろしくお願ひします。

ポンポン山（加茂勢山）

日 時：9月9日（日）

参加者：La 須増 SLa 長谷川(易) 青山 内海 瀧原 野村 藤原 渡邊(健) 関山 河合 荘所
Lb 山本 SLb 西村 清水 瀬尾 中嶋 長谷川(孝) 増田 多木 大谷 小山

行動記録：宝殿 7:20—茨木 I C8:40—川久保 9:30—本山寺 P10:05～本山寺 10:22(10:40 発)
～高槻の古木 11:35(11:45 発)～ポンポン山 11:52 昼食(12:30 発)～釈迦寺 12:58
～善峯寺 13:45(14:55 発)～入浴 15:30(16:10)—宝殿 17:55

★ ポンポン山に登って

瀬尾

「ポンポン山」この山はいったいどこにあるのだろうか？

高槻市と京都市西京区の境界に位置する標高678mの山で東海自然歩道上にあった。古くは「加茂勢山」と呼ばれていたが、明治時代になりポンポン山と呼ばれるようになったらしい。諸説あるが、頂上に近づくにつれて足音がポンポンと響くことからポンポン山と呼ばれるようになったという。

[名の由来 確かめようと 跳んでみる]

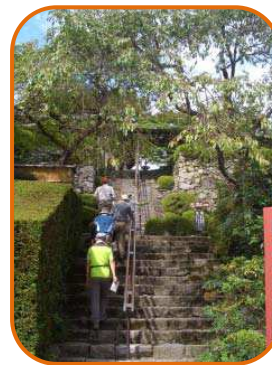
この道はきちんと整備されていて、木陰の中を安全に歩くことが出来た。道の両側にきのこがたくさん生えていて、なかには大きなきのこや色のついたものもあり驚いた。頂上に着くとすでに多くの人達でいっぱいだった。この山は人気がありますね。京都市内を眺めながら昼食をとった。

[暑い日に 人で賑わう ポンポン山]

釈迦岳に登り、杉林の中を善峯寺へと下った。ポンポン山の麓にはたくさんの寺、神社がある。その中でも善峯寺は西国二十番札所

であり、松の寺として有名である。「遊龍の松」と名づけられた松を見て“すごい！”の一言。樹齢600年の五葉松で全長50mもあり、美しく見事だった。日本一だ。この松を見ようと全国から参拝者が絶えないとか。境内は広く、今、秋明菊が咲いていた。四季折々の花が大切に育てられている美しい庭だった。

[いつまでも 遊んでいてね 龍の松]



今日は残暑厳しい一日でしたが、歩行時間3時間位でお寺参拝の時間もあり、帰りに町の温泉にも入りゆっくりとした楽しい山行となりました。この山の周辺にカタクリの花の群

生地があるそうなので春にもう一度来たいなあと思いました。計画して下さった須増リーダー、お世話になりました。本当に有難うございました。

高御位山

日時：9月23日(日)

参加者：La 澤田 SLa 西村 阿江 池尻 大石 香川 狩集 北口 木村 坂田 野田 小山

Lb 待場 SLb 森永 赤松 瀬尾 瀧原 田羅間 時井 中村 苦瓜 砂川(美) 開 三木

行動記録：鹿島神社 P 集合 8:30～市の池登山口 9:10～高御位山頂 10:20(10:50 発)～市の池登山口 11:50～鹿島神社 P12:00～鹿島殿 12:30(13:30 解散)

★ 初秋を感じた高御位山

香川

前夜・早朝の雨で、「中止かな～」と心配しましたが、少しコースを変えての山行になりました。(市の池コース～山頂へ同じコー

スを下山)

鹿島神社の駐車場に集合、遅れて来る方を待ちながらの自己紹介、ストレッチ。24名

で2班に分かれての出発です。

私は、リーダーの後ろ3～4番目を歩いていましたが、登りにかかって、すぐ水をよく吸った道に足を滑らせ転倒！（尻もち?）。それからは、皆さんのおすすめでリーダーのすぐ後ろを歩かせてもらいました。私を含め新人が多く参加しているため、ゆっくり、ゆっくりのペース。

雨上がりで湿気がたっぷりでしたが、初秋らしい気温で時折吹く風も気持ち良く、草花も生き生きとしています。つぼみをたくさん付けた萩、おみなえし、すすき、ききょう・・・に出会い“自然の初秋を感じました。”



途中、1回の休憩をとり、1時間半で山頂に到着、社で手を合わせ、岩の上から景色と風を楽しみ、皆で笑顔の集合写真。

また同じ道を滑らないようゆっくり、ゆっくりの下山。下りたら、ランチが待っているせいか、話はずみ足も軽やかでした。ランチの時刻には、充分時間があつたので、ストレッチのあとリュックを車に置き、靴も履きかえて鹿島殿のランチです。刺身・天婦羅・小鍋・栗ご飯・・・おしゃべりしながら、汗をかいた後のおいしい食事に幸せを感じました。

入会してから初めての山行でしたが、短いコース、曇り空、ランチ付きは、私にとって、この上ない楽しいものでした。そして、1時間半で登れ、山頂には神社があり、展望が良い標高304メートルの播磨アルプス・高御位山が大好きになりました。

この山行を計画して下さいった澤田リーダー、お天気をお知らせ下さった三木さん、次の日には、写真を携帯に送って下さった瀧原さん、皆さんに感謝です。

中央アルプス 木曾駒ヶ岳～空木岳

日 時：9月23日（日）～26日（水）

参加者：L：上田 大谷 北村 佐々木

行動記録：1日目：高砂 5:20→菅の台BS 10:20～42→千畳敷 11:40～12:00→乗越浄土
12:55→宝剣山荘 13:05～20→木曾駒ヶ岳 14:00～20→宝剣山荘 14:55（泊）
2日目：宝剣山荘 5:40→千畳敷 6:15～30→極楽平 7:05～10→濁沢大峰 8:40→檜
尾岳 10:15～45→熊沢岳 12:20→東川岳 14:15→木曾殿山荘 14:40（泊）
3日目：木曾殿山荘 5:40→第1ピーク 6:30→空木岳 7:20～40→駒峰ヒュッテ 7:45
～8:10→駒石 8:40～45→迷い尾根 10:30→マセナギ 11:45→鷹打場 13:00→
林道終点 13:25→菅の台BS 15:00→国民宿舎すずらん荘（泊）
4日目：すずらん荘 8:15→光前寺拝観→恵那峡散策→高砂 15:30

★ 中央アルプス 縦走 ： 木曾駒ヶ岳 ～ 空木岳

北村

木曾駒ヶ岳へは3年振りの山行。今回は 幾多の山稜を越え 中央アルプス主脈：空木岳への縦走ルートをとる。

山行1日目 (雨風のなかの行進)

上田リーダーをはじめ4人のパーティーは 降り続く雨の中、一路、駒ヶ根市を目指し、車を飛ばす。(天候の回復を願いながら) 菅の台バスセンターに駐車し、登山バスとロープウェイで千畳敷に到着したのは お昼前。

入山届を出した折、山岳補導員からのアドバイスに 驚愕! 昨日、濁沢大峰で滑落事故があり、明日も雨なら 縦走はやめたほうが・・・”

雨は続き、風も10メートル近く?に。カールから1時間かけて乗越浄土に到着。今晚の小屋、宝剣山荘にザックを預け、早速、木曾駒ヶ岳山頂を目指す。指先がジーンとくる。

小屋に戻り、お湯を沸かしコーヒーで心身を癒す。

幸いにも 次第に雨もあがり 星の輝きに 明日からの山行を期待して 就寝。

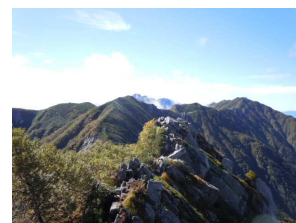
山行2日目 (巨岩・奇岩の踏破)

5時半過ぎに出発し、一旦、カールを下り、駒ヶ岳神社で山行の安全を祈願して長い縦走が始まる。

極楽平で コーヒータイムをとり、体調を整えてからスタート。約3時間後に問題の濁沢大峰にとりつく。岩稜に出たのち 鎖が架かる切り立った岩を下ったり、梯子やロープを使って断続的に続くガレ場を急降下したり・・・ 進むにつれて岩稜がやせていく。

昨日の滑落事故がどのあたりで起きたかは、見当もつかないが、気を引き締めなければならぬ。岩の手掛かりを見定め、三点支持に集中し慎重に登っていく。怖いながらも着実に距離をかせるのは 結構、おもしろい。

10時過ぎに、ようやく檜尾岳に到着するが、未だ、今日の行程の半分である。もし、ここで悪天候になれば、Uターンするか、檜尾尾根経由で下山するか、あるいは、最悪の場合、檜尾避難小屋に・・・の決断を要するポイント地点である。縦走登山の難しさを感じる。登下降を繰り返しながら、スリリングな難所をなんとかクリアーし、昼過ぎ、熊沢岳山頂に。あとは、気もそぞろに東川岳を通過し、眼下に乗越の木曾殿山荘が目に入った時には “ホット” “ヤレヤレ” (早く ビールが飲みたい!!)



(写真:左 檜尾岳 右 熊沢岳 中央奥 空木岳)

山行3日目 (ハイマツの緑ジュータン:空木岳)

5時半過ぎ、小屋を出る。入念なストレッチのあと、いよいよ、空木岳山頂をめざす。

小屋の前から取付き点のようなもの。岩棚、岩溝を慎重にクリアーし、第1～第3ピークの登攀ののち、7時20分、ようやく山頂に。周辺は、白砂(花崗岩に含まれる石英)が印象。

思わず、パーティー全員、手を握り合って、“感激”を共有する。ブロッケン現象のほか、360°のパノラマを満喫したのち、駒峰ヒュッテのテラスでコーヒーを沸かし、至福の時を過ごす。あとは 一路、池山尾根を下山するのみ。水平距離:9km、垂直距離:2kmの下山道。地獄に迷い入ることなく、無事に下山。



(写真:空木岳山頂で万歳)

かってない新鮮で変化に富み楽しい山行だった。リーダーはじめ パーティー全員に 感謝!

白山（美濃禅定道・石徹白道縦走）

日時：9月29日（土）～10月2日（火）

参加者：L砂川(延) SL山本 上田 尾越 澤田(律) 荘所 待場 和田

行動記録：

9月29日 宝殿駅 6:50—名塩 7:50—白鳥 風見鶏 10:55(11:37 発)—石徹白登～石徹 13:22
～休憩 13:50～神鳩の宮避難所 15:14(泊)

9月30日 起床 4:00(5:15 発)～母御石小 休止 5:50～銚子ヶ峰 6:20～一の峰 7:20～
二の峰 8:11～釈迦堂跡 水なし 8:40(8:50 発)～三の峰避難小屋 9:00 待機 10:58
発～別山平 休憩 12:10～別山ピーク手前 小休止 13:05～別山 通過 13:12～
チブリ避難小屋 休憩 13:15(13:31 発)～大屏風 13:40～天池 14:30～油坂 15:3
南竜山荘 16:05

10月1日 床 5:00(7:00 発)～アルプス展望台 7:58(8:05 発)～平瀬道分枝 8:51～室堂セン
9:05(9:25 発)～御前ヶ峰～10:10(10:25 発)～室堂センター 昼食 10:52(12:03)～
黒ボコ岩分枝 12:25～殿ヶ池避難小屋 13:07(13:20)～小休止 14:19～別当坂分枝
14:27～別当出合 15:38 (15:43 発)～永井旅館 16:00(泊)

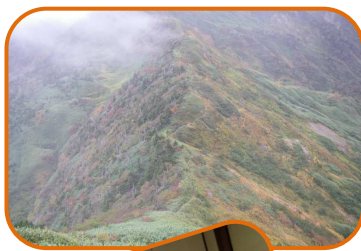
10月2日 朝食 7:00 ミーティング 8:00 出発 9:00—JR福井駅 10:45(11:10 発)—
JR敦賀駅 12:01(12:23 発)—JR加古川駅 15:21

★ 白山禅定道を歩き通して

砂川

長年の思いであった白山禅定道の縦走がやっと実現した。これは「初めての山歩き教室」の終了山行で毎年行っている「三の峰」で、その先にある別山を眺めながら、その度に考えていたことだった。

今回運営委員の練成山行として、石徹白から三の峰、別山、御前ヶ峰とたどり市ノ瀬へのルートを選んだ。禅定道には順駈、逆駈があるそうだが、われわれが歩いたのは逆駈（美濃から加賀へ）だったこと



とになる。

事前の天気予報で台風17号の接近で山行事態が危ぶまれたが台風が名古屋沖に接近するまでに30日の南竜山荘に逃げ込め

る可能性に賭け決行を選択した。最悪三の峰避難小屋での停滞も視野に入れ強風のため2時間ほど避難したが、南竜山荘に強風と雨の中、無事到着できた。

今回はこの長いコースを歩き通すこと、運営委員のきずなを強めることを山行の主眼に置き行った。

意外だったのは下山道に使った観光新道が下りではあるが、険しく体に応えたことだった。

白山禅定道の西半分は歩いたので、東半分も歩き通し、白山神駈道の完全走破を完成したい。

帰りは市ノ瀬から福井駅までタクシーを使い、福井駅からJRを利用して帰宅した。足の便が悪いので、どのような形が取れるか思案したが、ジャンボタクシーを有効に使えることは次回の計画にも活かせることが分かった。

大事なことは全員が足を揃え、無事歩き通せたことだ。今後の会活動の中に活かして欲しいです。

★ 台風接近中の気象担当



練成山行への初参加。白山南縦走路（美濃禅定道）といわれるルートである。

山行直前は丁度、台風17号、18号が日本の沖合にいてだんだん日本に近づいているときである。私の担当任務は気象担当に割り当てられている。日が近づくにつれ17号は台湾の方に行きそうに見えて徐々に北に、更には東よりへと向きを変えてきた。現状をパーティーにメールで事前報告をした。前日28日にリーダー（砂川会長）から決行とのメールが入った。但し状況により途中の小屋で停滞、若しくはショートカットで途中下山を考慮しておく。

29日は予定通り1泊目の神鳩避難小屋に到着。午後4時の気象通報（正午の気象）を聴き、天気図を作成した。台風18号は関東東方のはるか沖にありこちらには殆ど影響無さそう。一方17号は沖縄近海にあり、24時間後の30日には四国と紀伊半島の沖150kmに達するとの予報である。これは相当の影響をうけそうである。翌30日朝は未だ大したことはなかった。早朝ヘッドライトをつけて出発。三の峰に着く直前から明らかに風が強くなった。まさにビュービューである。9時前避難小屋に逃げ込みしばらく様子見とした。台風情報をやっていないかと

和田

ラジオをつけた。しばらく待っていたら四国沖辺りにあると報じた。

しばらくして“小屋の黒板にNHK第2の周波数が書いてある”と会長に言われた。残念、丁度気象通報が終わったところだった。風が若干納まった為、11時頃小屋を出発したが、2～3時間したら又風が強くなった。もう行くしかない。ようやく2泊目の南竜山荘に着いた。着いた時テレビが紀伊半島の南端辺りに居る台風を映しおり、翌日には北海道辺りへ行く予報をしていた。帰宅後 台風の位置を時系列に描いてみると 正に台風が太平洋岸を最接近中に暴風圏と強風圏の境辺りを行動していたのが判った。あとで訊いてみるとLの判断は台風の進路は南岸辺りだろうから直撃にはならないだろうというものだった。こんな時の気象担当は、任務を全うできない分つらいことです。



★ 白山・練成山行（会計）



2泊3日の白山山行の会計を担当した。往路はタクシーの利用、山では山小屋での支払い、最終日は復路でJRの利用と出費項目が少なく、比較的やりやすい内容だった。とはいっても、高額のお金を預かるので分散して会費集金するなど実施し、トラブルへの

澤田

配慮をした。一つ困ったのは台風の影響下で風雨のためザック・お金入れ用の袋が濡れて、お金が破れないか心配する場面に遭遇した。濡れない袋などお金入れの準備が必要だと思った。

★ 白山・錬成山行 (救急セット)



台風が接近と言う中での出発となったが貴重な体験ができた。

「初めての山歩き教室」終了山行で何度か行った、三の峰に登り、絶景を眺めていた山、いつか登りたいと思っていた別山と私の「登りたい山ベストⅢ」のひとつ、憧れの白山山頂部・御前峰に登ることが出来た。榛松と紅葉コントラストが素晴らしく満喫することができた。

救急セット担当になればいつも、これを使用することの無いようにと願い、ザックに入

待場

れる。この度、雨、強風の中、そして3日目の御前峰から別当出合の厳しい下りであったが使用することなく、無事に下山できたことを嬉しく思っています。

パーティーって、大事 調和がよければ、事故・怪我もないのでは・・・身と心とザックの軽量で楽しい山行 山は楽しく登り、正しく遊ぶ「このパーティーで良かった」と、どの山も、そう登りたい。楽しい山行が出来ました。有り難うございました。

★ 紅葉の白山山行 (カメラ)

今回、カメラ担当で、いつもは重さを気にしてカメラは迷いますが、今回はどんな写真が撮れるか楽しみにカメラをザックに入れました。

お天気は台風の影響で風雨の中も歩きましたが、3日目の南竜ヶ馬場から室堂平はナナカマドが赤く染まり始め、童謡紅葉の～赤や黄色の色さまざまに♪～と景色が素晴らしく、足元は白くウメの花に似ているウメバチソウ、赤い実のゴゼンタチバナ、白い丸い

花のシラタマノキが可愛く咲き、カメラマンとしては嬉しい忙しさでした。



尾越

L、SL は的確に指示を出し、他のメンバーも各自が自分自身の役割を果たし責任を全うし協力し合って、悪天候の中も皆が最後まで無事に歩くことができたと思います。

★ 錬成山行報告 (SL)

山本

9/29 (土)

石徹白よりの登山口でいきなり現れた400階段、一瞬六甲縦走高倉台の階段を連想するが、此処では緩い所もあってホットする。14Kg を背負っての久し振りの歩荷で長時間歩行、おまけに台風17号接近の悪条件に不安を隠せない出発であった。

1 泊目の神鳩宮避難小屋にはコース表示より若干時間オーバーで到着、これから先のコースもこのペースで超過時間だと先々の遅れが累積されて計画通りに目的地に行けない不安も頭をよぎるが、まずはストーブ、毛布等の整った小屋で夕食、宿泊の準備をしながら明日に備える。

9/30 (日)

翌朝道は濡れているが夜降った雨は止んでいて出発を決定。一瞬だが背中に御来光受けながら銚子ヶ峰、一の峰、二の峰と順調に歩く。三の峰手前の水飲釈迦堂に着き休憩も兼ね水汲みに谷筋を降りてみるが流れる水は滴程度、溜まりも浅く水汲み不可で断念、地図記載の水場は余り当てにしない方が良いでしょう、これが夏場であれば死活問題になるが、今日の気象状況ではそんなに心配もなさそうだと歩を進める。

地図で見ると此処から三の峰はあと僅か、少し急な岩場を過ぎた当たりで避難小屋が見えてきたが風が出てきた。終了山行では利用した事の無かった小屋に急いで潜り込む。ここまで3時間45分のはぼ時間通りで気持ちに余裕が出てきた。この季節では小屋周辺の草木は枯れ終了山行で来る時のあの華やかな雰囲気は全くない、風が吹いてる事もあって当に荒涼とした山となっている。2時間後風が少し弱くなり意を決して出発。三の峰ピークを過ぎて下りにかかった所で一瞬雲が切れ別山方面が羨望できるが、メンバーが“エー”と嬌声をあげる、目指す山が想定外に遠く、しかも深い谷へ降りてからの急登となっているのが見えたからだ、憧れの山はそう簡単に人を寄せ付け無くできているのがこの世界だ。

時折ポツリポツリと降る雨のおかげで暑くもなく、水もさほど必要としない、悪天候も考え次第で有り難いと思いながら黙々と歩く。

水があると思われた別山平の御手洗池も見事に枯れて空っ欠、雪も解けてしまって今の時期が一番水の無いのを認識、展望のない別山を後にしてこれからは下りばかりだとメンバーで元気付け、降り出した雨と風に晒されながら黙々と歩く。風は強く顔に当たる雨粒がゴム鉄砲にでも撃たれている程痛い。突風は東の谷から吹いて来るから飛ばされる心配はないが煽られそうになる時がある。西の尾根と樹林に入ると嘘のように風が無くなり一瞬の至福を感じる。いくつものピークをトラバースし油坂の頭から下ると平原が見えてきた、目指す南竜ケ馬場だ。既に紅葉が始まっている雄大な景色を見て、今まで写真を撮る余裕も無かったが徐にシャッターを押す。定刻16時に小屋に到着。

10/1 (月)

風は収まっているが霧雨が降る中を出発、背中方向に時折見える南竜ケ馬場の紅葉が見事。あっさりとアルプス展望台に着くが残念ながら霧に覆われて何も見えない。昨夜就寝前の荘所氏指導の入念なストレッチが効いて、3日目の登山にも関わらず全員順調で道端の晩花をカメラに撮る余裕がある。平瀬道分岐で御前峰麓に残る雪を見乍らコースタイム通りに来てる事を確認、他に登山者のいない室堂センターに着き小屋の中にリュックを置き御前峰へ、途中迄の登山道は過保護な程整備されていて、ここまで来た道と大きな違いだ。頂上での展望はないがメンバーとよく頑張ったと讃え合いながら握手、記念写真を撮りお互いに達成感を満喫。

室堂センターで昼食後、相変わらずの霧雨の中を下山開始。弥陀ケ原手前で単独登山者に会う、思い起こすと昨日、今日で初めての遭遇者だ、週初め、季節、天候等条件から見て当然かな。

下りも長く厳しい。それぞれが転ばないように注意しながら歩くが時折足を取られる。それでもコースタイムを維持して登山口に定刻に到着。

今回の山行は禅定道を歩くテーマで長距離、長時間に悪天候の条件も加わりかなり厳しいものだった。昔の修験者達が不確実な装備で道を切り開き、修業の為とはいえよく登ったものだと思改めて感心した。登頂だけを目指す一般登山者が、白山のネームバリューでだけでこのコースを選定して歩くには少し無謀な事かも知れない。

この山行で縦走登山の醍醐味を充分味わい得心できた事をリーダーに感謝しつつ、そして全員が何事もなく走覇した事で練成も達成でき、更に大きな自信を持たせたと思うし、高御位山遊会のリーディングスタッフとしての力量が育成できたと思う。

